評議員研修

真庭へ視察研修

令和五年十一月二十二日（水）に真庭市勝山町並み保存地区・真庭市立中央図書館へ会員三十三名で視察研修に行きました。

バスが真庭駅に到着、勝山観光協会の方より勝山の歴史をお話し頂きました。町並みを散策しながら武家屋敷館（渡辺邸）・勝山郷土資料館を視察しました。昼食には御前酒辻本店向かいの酒の貯蔵庫をリノベーションした「お食事処西蔵」で麹を使った料理を頂きました。

午後からは真庭市立中央図書館を見学。図書館は、一九八〇年に庁舎として建設され、築四十一年が経過した地上三階の鉄筋コンクリート造の建物をリニューアルした建物です。外観は、町並みの景観を損なわない木の温かみを感じ、周囲の景観との連続性が表現されていました。空調設備はバイオマスボイラーエネルギーを活用し、地域環境保護の取り組みが実践されているそうです。

帰りには道の駅「醍醐の里」でショッピングをして楽しく有意義な研修を終えました。

真庭市立中央図書館の見学後、集合写真に納まる参加者

能登半島地震被災地へ

義援金100万円

日赤へ義援金を寄託

令和六年一月一日に発生した能登半島地震の被災者支援として、一月十五日（月）岡山市連合婦人会から「愛の募金」を原資とする「被災地域緊急援助基金」より日本赤十字社岡山県支部へ義援金百万円寄託しました。

全員評議員講演会

「標準化」の役割学ぶ

令和五年十一月二十日（月）岡山市役所七階大会議室において全員評議員講演会が行われました。演題は「標準化って何？もっと知りたいその役割！」講師は主婦連合会の河村真紀子会長と平野祐子常任幹事でした。

河村真紀子氏　講演要旨

河村氏のテーマは「私たちの暮らしを支える標準化～国際規格の最近の動向を踏まえて」で、講演の内容は次の通りでした。

規格を作ることを標準化という。「日本工業規格」は二〇一七年七月から「日本産業規格」に変更になった。標準化とは自由に放置すれば多様化、複雑化、無秩序化する事柄を少数化、単純化、秩序化することです。

標準化の役割その①共通したものを使うことで理解しやすくなる。たとえば非常口のような案内標識や長さ・重さなどの単位。その②コンセントやボルト・ナットなど製品やメーカーが異なっていても利用できるという使いやすさの向上。その③鉛筆の芯の硬さなど品質性能を保つ。その④ヘルメットやチャイルドシートなど危険な事故や危害を防止するため安全性を確保。その⑤点字ブロックやシャンプーボトルのギザギザなど社会ニーズを実践すること。

消費者法の第一任者と称される松本恒雄先生の資料より、日本の消費者政策の歴史にも触れられました。二〇〇〇年代は市場重視のソフトロー（ゆるやかなルール）の時代。二〇一〇年代はより発達した消費者（コンシューマー）の時代である。「新しい事故調査機関実現ネット」の活動に主婦連も参加してきた。事故の分野、様態がさまざまであるにもかかわらず、事故の原因となった要因に、共通するものがあるのなら事故調査の標準化の可能性が大いにあるということではないか。事故はハード面（物）ソフト面（人間）が合わさって起きる。日本からの提案として消費者事故の調査についての標準化作業中である。消費者は標準化の重要なステークホルダー（利害関係者）である。標準化の役割を学んで、その問題が標準化の手法で対応できるかを考える、要望を出す、提案してみる。「これからもますます標準化への消費者参加を進めていきましょう」と結ばれました。

スライド写真と講演に熱心に聞き入る会員ら。講師の河村会長㊨と平野氏

平野祐子氏　講演要旨

続いて平野氏のテーマは「自動車用緊急脱出ハンマーについて」でした。

自動車用緊急脱出支援具とは、自動車に乗車中の交通事故や水没事故などで車中に取り残された際に、緊急脱出するために使用する用具です。シートベルトを切断したり、強化ガラスを破砕する機能があり、この切断破砕が一体となっているものが主流。消火やLEDライトなどの付加機能が一体化された複合型用具やシート切断機能のみのものもあるようです。自動車のフロントガラスは主に合わせガラスが使われています。合わせガラスはラミネートされており、脱出支援用具では通常割れません。ドアガラス、サイドガラス、リアガラスには強化ガラスが使われており、強化ガラスは脱出支援用具で破砕できます。さまざまな機能を持ったハンマーが販売されていますが、お試しができないものがほとんどです。JISマークなどのついたものや信頼できる商品を求めましょう。使うことがない方がいいですが、もしエアバッグが開く様な事があっても、手が届く範囲にハンマーを置いておくことが重要です。

おかやまマラソンボランティア

パンフや資料を袋詰め

令和五年十一月十二日（日）「おかやままラソン2023」は、岡山県総合グラウンド体育館前スタート、岡山県総合グラウンド陸上競技場をゴールとして、約一万六千名のランナーを全国からお迎えし、令和元年大会と同規模で開催されました。92％の完走率は史上最高で大きな盛り上がりの中、無事終了しました。

岡山市連合婦人会は十一月十日（金）ボランティアとして五十三名がジップアリーナに参加し、ランナーにお渡しするパンフレットや多数の資料の袋詰めを担当しました。

今回から新しくなったジャンパーとキャップを着け、十時から手順説明を受けた後、袋詰め作業を始めました。五十分作業して十分休憩、そしてまた五十分作業といった具合でした。腰や足の痛みを感じながらも、全国のランナーの皆さんが気持ちよく走り、完走されることを祈りながら十四時過ぎまで息を合わせ黙々と作業しました。

大会当日は、テレビで観ながらランナーを応援するとともに、お手伝いができたことを喜びました。

「おかやままラソン2024」は令和六年十一月十日（日）開催の予定です。

ランナーに配られる資料の袋詰めボランティア

親子で作るふるさとの味

食育レシピ ⑯

パッククッキング　＜ツナのチキンライス風＞

■材料（1人分）

- 米……70g
- 野菜ジュース(100%)・120ml
- ツナ缶……1／4缶
- ミックスベジタブル……30g
- 塩……少々
- こしょう……少々

■作り方

①ポリ袋にすべての材料を入れ、空気を抜いて口を結ぶ。

↓

②沸とうした鍋に入れて約30分加熱し、火を止めてそのまま15分蒸らす。

＜準備するもの＞　耐熱性のポリ袋

注意点

- ◆ポリ袋は、耐熱温度が110℃以上、または湯せん対応の記載がある高密度ポリエチレン製で厚さ0.01㎜の、無地でマチがないものを使う。
- ◆1袋に入れる量は、1～2人分を目安にする。
- ◆クッキングペーパーや布巾をなべ底に敷くと、ポリ袋が破れにくい。
- ◆入れる食品の量に応じて、余裕をもった大きさの鍋で。

（令和5年度岡山市栄養教室講座「パッククッキング」実施献立から）

編集後記

紙面を活動の一助に

令和五年五月八日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に変更となりました。婦人会会員も感染に注意をはらいながら、従来の活動を再開して活気が戻りました。総会以後、緑のハイキング・婦人文化祭・岡山市合同敬老会及び地区の敬老会等、各学区・地区婦人会による多々の婦人会活動が会報に投稿され、会員の皆様の意気込みが感じられる紙面になりました。

新型コロナも完全な終息ではありませんが、今までの経験を活かして頑張る学区・地区の会員の皆様の投稿を大切に、この会報を通して、各婦人会員皆様の活動の参考や活力になればと広報啓発部一同これからも頑張って参ります。

今回は敬老会とあいさつ運動を特集した「特別号」を3月号と共に発行します。